

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 30 年 5 月号



【日高振興局】5/18 お花を愛でて心優しく育て・・・「花育」活動を実施

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



I 海草振興局	1 - 2
1. 誘殺トラップによるカメムシの発生消長調査を始める	
2. 平成 30 年産カンキツ類の着花状況調査の結果	
3. 和海地方生活研究グループ連絡協議会が総会・研修会を開催	
II 那賀振興局	3 - 4
1. イチゴのナミハダニの薬剤抵抗性調査を実施	
2. 第 2 回関西農業ワールドへ現地研修（紀の川市環境保全型農業グループ）	
III 伊都振興局	5 - 6
1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】 ～高接ぎ「紀州てまり」の活着率調査～	
2. かつらぎ町有機栽培実践グループ総会及び研修会の開催	
IV 有田振興局	7 - 9
1. 平成 30 年産カンキツ類の着花状況調査の結果	
2. 平成 30 年度有田地方生活研究グループ連絡協議会総会開催！	
3. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）でアイガモの検卵を実施	
4. カンキツの生理生態と年間の栽培管理に関する研修会を開催	
V 日高振興局	10 - 12
1. お花を愛でて心優しく育てて・・・「花育」活動を実施	
2. 平成 30 年度日高川新果樹研究会主催 かんきつに関する講演会を開催	
VI 西牟婁振興局	13 - 14
1. 茶の樹勢回復のための中刈りを実施！	
2. 田辺市立上秋津小学校で「みかんの授業」を実施	

Ⅶ 東牟婁振興局 **15**

1. スクミリンゴガイ防除対策説明会を開催
2. 太田のナス組合が栽培出荷検討会を開催

Ⅷ 農林大学校 **16**

1. 平成30年度社会人過程（離転職者等職業訓練「農業科」）がスタート

Ⅸ 農林大学校 就農支援センター **17－18**

1. 平成30年度技術習得研修(第1班開講)
2. 平成30年度ウィークエンド農業塾 農業入門コース(第1班)開講

X 経営支援課（農業革新支援センター） **19**

1. 県4Hクラブ連絡協議会が総会・農村青少年技術交換大会を開催

I 海草振興局

1. 誘殺トラップによるカメムシ発生消長調査を始める

今年はカメムシの発生量が多いことが予想されるため、和歌山県地方病害虫防除対策協議会では例年よりも早い4月12日に誘殺トラップを設置し、4月20日よりカメムシ発生消長調査を始めた。誘殺トラップは和歌山市1ヶ所、海南市4ヶ所、紀美野町5ヶ所、合計10ヶ所のスギ・ヒノキ林などに設置した。誘殺トラップはルアーと呼ばれるフェロモン剤でチャバネアオカメムシを誘引し、捕殺するもの。



誘殺トラップ調査

調査はJAわかやま、JAながみね、農業水産振興課との共同で週1回誘殺数を確認しており、かき・もも研究所や和歌山県柿研究協議会の協力も得ている。

今年3月の調査ではチャバネアオカメムシの越冬量が多く、4月下旬以降、前年よりもチャバネアオカメムシの誘殺数が多い状況が続いている。

5月第3週の調査では、特に誘殺数が多く増加傾向にあったことから、紀美野町内で防災無線による一斉防除の啓発を行った。秋のカンキツ、カキの収穫期に向けて、園地での発生状況にも注意が必要である。

調査結果は海草振興局農林水産振興部のホームページで公開している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/chiiki/nogyoshinko/kajyukamemushi.html>)

2. 平成30年産カンキツ類の着花状況調査の結果

5月10日、和歌山県地方のカンキツ類の着花状況調査を実施した。温州みかん123園地と中晩柑類（清見、不知火、はっさく）28園地の計151園地を、JA、農業共済組合、JAグループ和歌山農業振興センター、県関係機関等の職員24名が手分けして着花量や新梢の発生程度を目視（達観）により調査した。

調査の結果、着花量は園地や樹によるバラツキが見られるものの、総体的に平年より多い状況であった。また、3月以降気温が高く推移したことから、満開期は昨年より5～10日程度早かった。

着花量がかなり多い園地も見受けられたことから、調査結果を農業関係機関で共有し、摘蕾（花）・摘果など今後の管理作業に役立てることとした。



7 班に分かれて調査



着花状況

3. 和海地方生活研究グループ連絡協議会が総会・研修会を開催

5 月 14 日、海南市農村婦人の家において、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：寺中佐知子）総会・研修会が開催され、会員 30 名が出席した。総会では、すべて原案どおりに承認されるとともに、役員改選で新会長に松田吉恵氏（海南市）が選出され、承認された。

総会後の研修会では、普及 OB で普及指導協力委員の向井元治氏から「グループ活動の進め方」と題した講演が行われた。向井氏からは、グループ活動の意義や課題を解決していくにはどうすればよいのか、リーダーとしての資質や要求される能力など、グループを続けていくためのヒントとなる興味深い話があり、会員は皆熱心に聴講していた。

研修会終了後には会員で、旬を迎えた実さんしょうを使って、「山椒牛肉のしぐれ煮」や「たけのこ煮物の山椒風味」などの山椒料理を作り、試食をしながら意見交換をし交流を深めた。

農業水産振興課では今後とも、地域農産物を使った地産地消の取組推進等を支援し農村女性活動の活性化を図っていく。



研修会



講演する向井元治氏

Ⅱ 那賀振興局

1. イチゴのナミハダニの薬剤抵抗性調査を実施

5月7日から5月27日にかけて、農業試験場と農業水産振興課で管内6カ所のイチゴ栽培圃場において、イチゴの重要害虫の1つであるナミハダニの薬剤抵抗性の調査を行った。

ナミハダニをはじめとするハダニ類は、殺ダニ剤の防除効果が得られない事例が多く見られ、薬剤抵抗性の発達が疑われている。そのため、管内の岩出市1カ所、紀の川市5カ所の圃場からナミハダニを採集し、主要な殺ダニ剤5種類の殺虫効果を検定した。圃場ごとに程度が異なったが、殺虫効果の低い剤が多かった。詳細な結果は現在、取りまとめ中である。

得られた調査結果については、今後のハダニ類防除体系の参考にしていきたい。



ナミハダニ



圃場でナミハダニを採集

2. 第2回関西農業ワールドへ現地研修

【紀の川市環境保全型農業グループ】

紀の川市環境保全型農業グループ（会長 畑敏之）は、5月10日に最新の農業資材や栽培技術を学び、会員の農業経営やグループ活動に活かすことを目的に、第2回関西農業ワールドへの現地研修を開催し、会員等14名が参加した。

現地では、スマート農業や植物工場など、最新の農業技術が展示される「次世代農業 EXPO」、農業に関わる資材が一堂に展示される「農業資材 EXPO」、加工・販売するための機器・サービスが集まる「6次産業化 EXPO」の3展があり、会員各自が自身の農業経営にあった展示ブースを訪問し、資材の効果や効率的な使用方法など積極的に担当者に質問していた。

また、自身の経営で使えるような資材については、サンプルの発注や価格交渉するなど商談をすすめていた。

会員からは、普段では見ることができない資材等がまとめて展示されており、見るだけでなく担当者から話を聞くことができたので勉強になったとの声があった。また、今回の研修内容については、会報を通じて、会員へ周知する。

農業水産振興課では、今後も、会員らの経営や栽培の参考となる研修会を開催していく予定である。



シートバックによるトマト栽培



薬剤散布用ドローン

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【省力化と新品種導入による柿産地の振興】

～高接ぎ「紀州てまり」の活着率調査～

主力品種である「刀根早生」の出荷集中による価格低迷、担い手の減少や高齢化による労働力不足、耕作放棄園の増加など、和歌山県の柿産地を取り巻く情勢は厳しい状況である。このような状況を改善するため、農業水産振興課では本年度新たな普及計画を策定し、重点プロジェクトとして課題解決に向けて取り組み始めた。

本年度は「刀根早生」の集中出荷の是正に向けた取り組みとして、本県育成の甘柿新品種「紀州てまり」（出願公表日：平成 29 年 6 月 26 日）の導入を検討している。「紀州てまり」は外観・食味が良い完全甘柿で 10 月中下旬に収穫できることから、「刀根早生」と収穫時期の分散が期待される。しかし、育成されて間もないため、現地適応性について検討がされていない。

このため、現地適応性調査の一環として、本年 3 月に管内 5 園地（橋本市 2 か所、かつらぎ町 1 か所、九度山町 2 か所）において「刀根早生」に「紀州てまり」の穂を高接ぎし、5 月 23 日に活着率の調査を行った。

活着率は園地による差がみられず、全ての園地で 9 割以上の穂が活着していた。

「紀州てまり」については、管内農業者の関心が高く、期待を寄せていることから、今後生育調査を続け、農業者に情報提供を行っていききたい。



「紀州てまり」高接ぎ樹

2. かつらぎ町有機栽培実践グループ総会及び研修会の開催

5月11日、かつらぎ町有機栽培実践グループ（会長 木村義考）がかつらぎ総合文化会館において会員ら25名の出席のもと平成30年度総会を開催した。議案はすべて可決、承認され、木村会長の続投が決まった。

また、総会後には研修会が開催され、NPO法人和歌山有機認証協会 西出事務局長を講師に招き、「有機認証の団体から個人への移行におけるリスクやメリット等について」と題して講演が行われた。団体認証から個人認証への変更点や手続きの留意点について説明があり、出席した会員らは熱心に耳を傾けていた。監査手数料や個人の事務の違いを学び、具体的な場合を想定した質問が多く出された。農業水産振興課では、今後も同様に同グループの活動を支援していく。



木村会長の挨拶



総会

Ⅳ 有田振興局

1. 平成30年産カンキツ類の着花状況調査の結果

5月8日、有田地方におけるカンキツ類の着花状況調査をJAありだ、農業共済組合、JAグループ農業振興センター、近畿農政局、果樹試験場、果樹園芸課、農業水産振興課、29名で行った。調査園地は、温州みかん 120 園地と中晩柑類（清見、不知火、はっさく）38 園地の計 158 園地の着花量や新梢の発生程度を目視（達観）により調査した。

調査の結果、園地や樹によるバラツキが見られるものの、総体的に着花は多い状況、新梢の発生は平年並みからやや少ない状況であった。

また、3月以降気温が高く推移し、適度な降雨もあったことから、すでに満開期を過ぎている園地が多く、満開期は平年より7日程度早かった（早生みかん）。

温州みかんについては、樹勢は中庸、着花指数は平年を10とした場合、極早生で11.4、早生で11.6、普通で11.1であった。

また、中晩柑類も樹勢は中庸で、着花指数は平年を10とした場合、清見で12.5、不知火で11.2、はっさくで12.0であった。

この結果を踏まえ、来年の着花量確保のため、今後摘果の徹底の推進について、参加機関で意識統一を行った。



現地での調査前に、果樹試験場で満開日や着花指数の基準について確認

2. 平成30年度有田地方生活研究グループ連絡協議会総会開催！

5月9日、平成30年度有田地方生活研究グループ連絡協議会総会が開催され、会員関係者合わせて28名が出席した。

総会では、平成29年度事業経過と収支決算報告、監査報告、平成30年度事業計画、予算審議を行い、議案どおり承認された。また、役員改選により30年度の新役員（会長 三角文恵）が決まり、総会は終了した。

総会終了後の研修会では、有田振興局健康福祉部衛生環境課 福原順子主査より、「食品の表示について」と題して、食品表示に関する法律の一元化や、食品表示の記載項目、記載

方法について講演が行われた。会員は農産物の加工にも取り組んでいるため、メモを取りながら熱心に聴講し、具体的な事例を交えた質問も盛んに行っていた。

農業水産振興課では、今後も生活研究グループの活動支援を行っていく。



新役員の挨拶



食品表示の研修会

3. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）でアイガモの検卵を実施

糸我小学校では、糸我地区青少年育成会主催による「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦）が18年前から行われている。

「田んぼの学校」は、育成会の会長をしていた山崎氏が、学校給食から多くの残飯が出ていることを知り、子どもたちにお米のありがたさ、大切さを伝えるために始めた取組である。

児童は田植え、苗取り、稲刈りなど年間を通じて、コメ作りを体験するとともに、アイガモを水田に放して雑草の発生を少なくするアイガモ農法を実践する。収穫されたお米は、「鴨・米・美」「カモンベイベー」として、一般の方にも販売されている。

授業の一環として、5月18日にふ卵器への入卵、5月28日にアイガモの卵の生育状況を確認する検卵が実施され、山崎氏、農業水産振興課職員より、ふ化に必要な条件や、受精卵の成長の様子について説明を行った。児童らは興味深い様子で、成長している卵を確認していた。

当課では、今後も農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



ふ卵器への入卵



検卵方法について説明をする山崎佳彦氏

4. カンキツの生理生態と年間の栽培管理に関する研修会を開催

農業水産振興課では、就農して間もない農業者に対し、担い手として定着できるよう、知識や技術の習得を支援するアグリビギナー等技術経営研修を5月29日に開催した。

今年度、第1回の開催であったが、新規就農者や4Hクラブ員、計25名の参加があり、最初に当課から、就農や経営安定に関する支援策について紹介した後、果樹試験場栽培部の中地主任研究員より、「常緑果樹であるカンキツは、葉がとても大事」という視点から、生育ステージごとの栽培管理のポイントについて、分かりやすい説明があった。

また、カンキツの端境期であったが、試験場で貯蔵していた果実を試食、その後場内の若木園にて、新芽の摘心や果実の残し方等の実演、質疑応答を行った。

「苗木の長く伸びた新芽は、どうすればいいのか?」、「いつ頃までに摘果すれば、芽が出るのか?」など質問が多く出るとともに、参加者同士でも意見交換していた。

今後も、温州みかんの摘果や剪定の技術研修等を実施していく予定である。



会議室にて講義



果実の試食



場内ほ場での実習

V 日高振興局

1. お花を愛でて心優しく育てて・・・ 「花育」活動を実施

5月18日、日高地方農業士会（会長：谷 廣美）と日高地方花き連合会（会長：佐藤公彦）は、共催で「花育」活動を実施した。

この活動は、子どもたちが花に親しみ、花とふれあう機会を通して豊かな心を育くむとともに、当地方が全国有数の花の産地であることを知ってもらおうと行っているもので、今年で10回目を数える。両会員らは、花き連合会会員が育てたスターチスや宿根カスミソウ、カーネーションなど約2,000本の切り花を花束にし、管内の小学校33校（支援学校含む）に日高地方の花を紹介したパンフレット、参考資料とともに届けた。

10回目の節目となる今回は、対象を5、6年生とする一方、贈呈式実施校（6校）のうち3校（切目小学校、和田小学校、松原小学校）で花き連合会会員が講師となって子どもたちに簡単な花束ギフトを作ってもらう体験学習を実施した。

切目小学校で行われた贈呈式では、谷会長と佐藤会長が児童代表に直接花束を手渡し、花に関する講話を行った。谷会長は「家でも花を飾ったり、花壇で育てたりして、元気で優しい人に育ってください。」と呼びかけた。続いて花束ギフトを作った児童らは、作品を手に「大好きなおばあさんにプレゼンとしたい。」などと笑顔で話していた。佐藤会長も「花束ギフトづくりは初めての取り組みで少し心配もあったが、子どもたちはたいへん楽しそうに作ってくれた。これが気軽に花をプレゼントするきっかけになってくれれば。」と話していた。



贈呈式（切目小学校）



花束ギフトづくり（松原小学校）

2. 平成30年度日高川町新果樹研究会主催 かんきつに関する講演会を開催

日高川町内のかんきつをはじめとする果樹栽培農家で結成し、果樹の栽培技術向上や安定生産および産地の活性化を目的に活動を行う日高川町新果樹研究会(川越安信会長)が、5月29日、日高川町農村環境改善センター大会議室において、かんきつに関する講演会を開催した。

当日は、会員に加え日高川町内からの会員外の生産者も含め計24名が出席した。講演会では、基調講演として大阪管区気象台気象防災部の笠谷博幸予報官から「農業への気象情報の利用について～近年の気象変化に備えて～」と題し、過去10年の季節ごとの天候の特徴や近年の気象変動について説明があった。併せて、今年3月に公開し運用が始まった「農業に役立つ気候情報の利用の手引き」の概要について説明を受けた。



川越会長からの挨拶



講演を行う笠谷予報官

笠谷予報官の説明では、100年前と比べ和歌山は1.5度平均気温が上昇しており、今後100年で年平均気温の上昇や、真夏日および時間雨量50mm以上の大雨が発生する回数が増加することが予測されるとのことで、農業を取り巻く気象環境の変化に参加者は熱心に耳を傾けていた。

また、講演会後には、平成29年度にカンキツにおいて適応拡大された農薬(殺虫剤)2剤について、農薬メーカーから製剤の特徴や殺虫効果に関する説明があった。

日高地方の中でもカンキツ栽培が盛んな本町内では、年間を通じ特定の農薬の連用による殺虫効果の低減が危惧されており、今回説明のあった2剤は、通年連用している薬剤の代替剤の1剤として、関心が高まっている。参加者からは、天敵に対する影響など熱心な質問があり、講演会と合わせ大変有意義な内容となった。次回、本研究会は、平成30年産みかんの適正な栽培管理を実施するために、会員のみかん園地にてみかんの粗摘果と夏季剪定に関する現地研修会を予定している。



新規登録農薬の特性を解説する農薬
メーカー担当者



製剤に関する質問を行う参加者

VI 西牟婁振興局

1. 茶の樹勢回復のための中刈りを実施！

5月21日と24日、白浜町市鹿野地区において、生産者、地域おこし協力隊、普及指導員が参加して中刈りを実施した。

中刈りとは、古くて勢いのない細かい枝を剪除するため太い枝まで切り戻し、勢いのある夏秋梢を発生させて樹勢回復させる剪枝方法である。樹勢の弱い樹は収量・品質ともに低下するため、中刈りは重要な作業の1つである。

今回実施した樹は、今まで剪枝したことのない樹勢の弱い「やぶきた」の老木樹で、このような樹は市鹿野地区の園地が多い。市鹿野地区では数年前から徐々に中刈り園が増加しており、樹の若返りによる茶の収量と品質の向上が期待される。

今後は、生産者と一緒に中刈りした樹の生育状況を確認していくとともに、引き続き樹勢回復のための中刈りや、中刈りよりもさらに深く切り戻す台切りを推進していく。



中刈り作業
2人で機械を使って枝を刈る



中刈り後の状態（右側）
太い枝まで切り戻す

2. 田辺市立上秋津小学校で「みかんの授業」を実施

5月29日、前田普及指導員が講師となり、上秋津小学校5年生の児童（20名）を対象にみかんの授業を実施した。

上秋津小学校では、地域の主要産業である農業について各学年でテーマを決めて一年を通して学ぼうと、学校と地域の農家、老人会、J A紀南青年部、公民館、農業水産振興課等が協議をして活動計画を組んでいる。5年生はみかんをテーマにしており、今回の授業が実施された。

最初に、上秋津地区で80種類以上の柑橘が栽培されていることやみかんの栽培方法からみかんが出荷されるまでの流れ等を説明した。児童は真剣な表情でメモを取っていた。途中のみかんクイズでは、児童が積極的に発言し、正解すると嬉しそうな表情だった。

質問の時間には「なぜ上秋津でみかんの生産が盛んなの？」、「裏がボコボコしたみかんがおいしいってほんと？」等、多くの質問があり、みかんについて大変興味を持ったようだ。

その後、校庭に移動し、みかんの樹の育て方について説明した。今後は、日照りが続いた時の水やり、害虫の確認、草抜きを児童が行い、責任を持って育てることとなった。

最後に、上秋津地区で栽培し、冷蔵保存していた8種類の柑橘を試食し、品種当てクイズを行った。児童は「これめっちゃ好き！」「この品種なんやろ〜？」と話しながら品種と感想をワークシートに記入し、楽しみながら授業を受けていた。

当課では、今後も関係機関と協力しながら、地域農業を軸とした食育を推進していく。



みかんの授業



児童から積極的に質問が上がる



みかんの樹の育て方の説明



柑橘の試食（品種当てクイズ）

Ⅶ 東牟婁振興局

1. スクミリングガイ防除対策説明会を開催

5月21日、JAみくまの、農業水産振興課は、JAみくまのみさき支所において、三輪崎地区・佐野地区・木ノ川地区の農業実行組合員17名を対象に、スクミリングガイ防除対策説明会を開催した。

説明会では、当課の木村技師からスクミリングガイの生態や被害の概要、防除対策、今年度の発生状況について説明した。

JAみくまのからはスクミリングガイの駆除・防除に登録がある農薬の特性や使用方法について説明が行われた。

三輪崎地区・佐野地区・木ノ川地区では数年前からスクミリングガイの発生が報告されており、発生区域が徐々に拡大している。当課とJAみくまのでは、今後も引き続き、スクミリングガイの駆除・防除を水稻栽培者へ呼びかけていく。



説明会



水稻に産み付けられた卵塊

2. 太田のナス組合が栽培出荷検討会を開催

5月28日、太田のナス組合（会長：松本 安弘）は、JAみくまの太田営農センターにおいて、栽培出荷検討会を開催した。生産者、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課併せて13名の出席があった。

検討会では、はじめに当課の堺副主査がナスの病虫害防除について説明を行った。続いて、組合員から栽培状況及び病虫害の発生状況について報告があった。

組合員のほ場では、「うどんこ病」と「ハダニ」が発生しており、防除方法について参加者で意見交換を行った。その後、市場関係者から昨年の販売状況について説明が行われた。

次回は6月に現地検討会を行い、生育・着果状況等を調査する予定である。



栽培出荷検討会

VIII 農林大学校

1. 平成30年度社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）が

スタート

5月18日、社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）がスタートした。

本課程は農業分野への就職、就農を目指す社会人を対象に農業の基礎知識を習得する研修となっている。

今年度は8名の受講生が、野菜、果樹の専攻コースに分かれ、来年2月19日までの9カ月間、講義、実習、農家研修などを実施する。

開講式では受講生代表が、「本課程を通じて専門的な知識、技術を学び、農業の担い手となる」と宣誓。翌週からは、各コースに分かれ、トマトの収穫作業などの実習が始まり、実践に即した研修に取り組んでいる。



校長から挨拶



受講生代表による宣誓



トマト収穫実習

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 平成 30 年度技術修得研修（第 1 班）開講

5 月 7 日、11 名の受講生を迎えて技術修得研修（第 1 班）が開講した。

研修生は、5～9 月の 5 ヶ月間、全 25 日間に講義と実習によって、農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。

午前中の開講式に引き続き、午後は、ケイトウのは種とスターチス及びキンギョソウの収穫作業を実習した。

研修終了後にはスムーズに就農できるよう、充実した研修メニューで応援していく。



開講式



ケイトウのは種作業実習

2. 平成 30 年度社会人課程開講

5 月 18 日、就農支援センターにおいて社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）がスタートした。

本年度は県内外から 9 名が受講することになり、来年 2 月 18 日までの 9 ヶ月間、講義と実習、農家研修などを実施する。

開講式では岩尾所長の挨拶に続いて、受講生一人一人から研修で学びたいことや、将来の抱負等を語った。その後、オリエンテーション、場内見学を行った。受講者から「来週からの研修が楽しみです」との声も聞かれ、彼らの頑張りに大いに期待したい。

研修生らはそれぞれ農業に夢を抱き受講している。私たち職員もその夢が実現できるよう全力でサポートしていく。



開講式

3. 平成 30 年度ウイークエンド農業塾 農業入門コース（第 1 班）開講

ウイークエンド農業塾農業入門コース（第 1 班）が 5 月 19 日にスタートした。

本年度の受講者は 8 名で、7 月 15 日までの週末を利用して計 10 日間、農業の初歩的な知識や技術などを学ぶ。

開講初日は、「和歌山県農業の概要」と「品種・播種・育苗」の講義の後、イチゴの育苗管理、農機具の取扱いを実習した。

今後は野菜、花き、果樹の栽培管理や収穫等を行う予定である。



農機具の取り扱い実習



イチゴの育苗作業実習

X 経営支援課（農業革新支援センター）

1. 県4Hクラブ連絡協議会が総会・農村青少年技術交換大会を開催

5月14日、農業試験場暖地園芸センター研修館において、和歌山県4Hクラブ連絡協議会（会長：山本宗一郎）の総会が開催され、会員ら29名が出席した。活動及び予算関係の議事は全て原案どおり承認された。併せて役員も改選され、新会長に和歌山県4Hクラブ連絡協議会の小杉耕平氏が就任した。

総会に続き、農村青少年技術交換大会が行われ、24名の参加者が筆記試験や実物鑑定（農業関連資材・病害虫等の写真や実物を見て鑑定）によるテストを通じて、農業に関する知識や技術を競った。採点の結果、有田川町4Hクラブの辻岡誠之氏が1位、南広4Hクラブの伊藤貴章氏が2位となり、成績優秀者として紹介された。また、成績上位者のうち辻岡氏と印南町4Hクラブの西山和克氏が、来年2月に大阪府を中心に開催される平成30年度全国農業青年交換大会に派遣されることとなった。

競技終了後には、平成29年度の全国大会派遣報告、全国農業青年交換大会バススクール和歌山コース催し検討会が行われた。検討会は、平成30年度全国農業青年交換大会のイベントの一つとして近畿各地で開催される現地視察（バススクール）の歓迎会の内容を検討するもので、4～5人ずつ5グループに分かれて意見を出し合い、検討結果をグループごとに発表した。今回の検討会の目的は「歓迎会の内容検討」以上に、①県下のクラブ員にバススクールを自分たちのことととらえてもらう、②クラブ員同士の地域を越えた交流としていたが、各グループとも活発に意見が出され、交流も深まったようで、これら目的は達成できた。

経営支援課では、4Hクラブで活躍する若手農業者が地域の中核農業者に成長していくよう、会活動へのサポートを通じて支援を行っていく。



総会



技術交換大会（筆記試験）



バススクール催し検討会（左：班に分かれて検討、検討内容の発表）



普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489